

兵庫県立津名高等学校同窓会阪神支部役員名簿

氏名	電話	氏名	電話
顧問 高校3 筆谷 正	0798-67-0509	幹事 高校12 武田 要章	078-708-9601
支部長 高校5 立花 和也	078-731-3124	13 小久保澄夫	078-842-0425
副支部長 高校6 本田 卓禾	078-452-1900	13 田中 種義	0726-61-3091
〃 高校6 保宗 幸夫	078-752-5105	13 田村賀世子	0798-36-4759
〃 高校7 薄木 昌信	06-384-7754	13 藁田 昭代	06-952-8000
〃 高校9 沖 正典	078-708-3661	13 高田千代子	06-853-4913
〃 高校10 柴生 進	0727-59-7160	13 山本 幸平	06-876-2758
〃 高校10 村上 昇	078-783-9006	14 渡辺 勝	0798-53-8032
会計 高校6 尾崎田鶴子	06-389-4070	14 桑名賀代子	078-781-0896
幹事 実科8 丹羽喜美代	06-841-2828	15 門 康彦	078-974-3632
〃 高女4 西本まさえ	078-731-7082	16 寺西 龍彦	078-741-0725
〃 4 漁 やあ子	0797-22-6326	17 上宮正一郎	078-784-3950
〃 9 木村千恵子	0797-23-2088	17 臼井美佳子	0724-82-3650
〃 9 藤本 茂子	078-741-2748	18 柳谷 承示	0729-96-7695
〃 10 辻 栄子	0720-31-2957	18 杉岡実季子	078-935-2093
〃 11 寺崎 弘子	078-576-5340	19 田井地 力	06-387-0166
〃 高校1 日野恵美子	078-794-4353	19 嶋嶋 正利	0798-65-6944
〃 2 越智 信子	078-783-2806	20 菅 数子	078-994-5351
〃 3 小山 好子	06-432-5729	20 網城 茂久	0727-75-1416
〃 3 森口 文子	06-622-0395	21 木下 弘子	0797-22-3975
〃 4 染谷 稔	0722-52-8313	21 橋口 芳子	0727-83-2908
〃 4 上田知佐子	0722-27-6521	22 赤坂 進	078-731-2457
〃 4 庄司ヒサノ	0798-47-6717	22 小阪 龍雄	0729-38-7227
〃 5 藤原知恵子	078-733-2311	23 赤松 博	0798-47-8641
〃 5 瀬野 昌枝	0727-92-0732	24 畠中 光広	0798-52-0251
〃 6 坂東 章好	0720-47-6904	24 東 美智代	078-994-1621
〃 6 太田 均	0726-95-1156	26 野口 和俊	078-927-3647
〃 6 坂東 洋治	078-593-2452	27 藤森 泰宏	078-709-1214
〃 6 森多貴美子	06-691-1003	28 股野 孝司	078-975-0514
〃 6 先山 慶子	078-751-1100	28 澁 庸次朗	078-783-3078
〃 6 石原 富子	078-331-4784	28 島脇 渉	078-942-1859
〃 6 古土井和佳子	078-341-2308	28 藤田 頼子	078-793-7603
〃 7 米澤 詢平	0726-87-8152	30 吉田 誠	078-651-6214
〃 7 橋形 月代	0797-88-3910	34 高濱 昌次	0799-74-4147
〃 7 木村多津子	078-982-3322	37 新阜 克敏	06-671-2803
〃 8 平松 忠	078-709-8227	37 今崎 幸子	06-857-4351
〃 8 後藤 拓代	078-592-6588	39 仲野 光智	0727-23-0211
〃 9 佐名川 平	0726-41-2791	39 上条 廣之	0799-85-1002
〃 9 上 雅子	06-433-3209	43 寺谷ひとみ	0798-73-5944
〃 10 稲室公二子	06-876-0176	44 坂本 恭子	078-431-2120
〃 10 道下 賀子	0745-32-6733	44 浜田小百合	078-452-9661
〃 11 浜野 長文	078-822-2235	44 原 雅香	078-781-5709
〃 11 山崎 義雄	078-843-3150	44 林 秀光	06-321-7397
〃 11 島田てる子	06-582-0620	45 先 昭光	0799-85-0609
〃 11 長谷川伊須美	078-691-8047	45 谷 健年	0799-85-1505
〃 11 山崎美代子	0798-46-3538	45 仲野智恵子	0799-62-2106
〃 12 岩井 吉人	078-708-6169	45 新居 恵	0799-32-0518
〃 12 倉本 寿一	06-856-3545	47 清水 智子	0799-74-5050
〃 12 喜田美登里	078-991-7771		
〃 12 砂川 英明	078-784-8133		

同期生の総会への参加呼びかけをよろしく



支部報創刊に当って

支部長 本田卓禾
(高六回生)

千鳥舞う青い波白い波の彼方に彷彿するわ
らが故郷と神戸市とが陸続きになる日が近づい
て参りました。

昨年一月十七日の払暁を破る阪神淡路大震災
は、未曾有のもので、生命、身体、財産に多大
の被害を及ぼしましたが、会員の皆様、お元氣
で参りましょう。遅くなりましたが、お見舞いし上
げます。

さてわが母校は、創立以来七十六年、校
名が県立津名高等学校になって以降でも四十
九年を閲し、卒業生約一万五千人を擁する伝統校
となつております。進学、就職は言うに及ば

ず、スポーツ面でも、野球部の今春期県大会で
の優勝に象徴されるように、素晴らしい成績を
残しつつあります。

また校舎の移転問題が話題に上つて久しくな
りましたが、明石大橋架橋開通と相前後して具
体化する筈です。新校舎は、造成なつた白砂の
海浜地域か、グラウンドに隣接した青松の丘陵地
帯か、と希望に胸ふくらみます。校舎の移転と
同時に、遅れている同窓会館の建造を急がなけ
ればなりません。

母校は歴史を刻み、同窓会は肥大化してあり
ますが、同窓会の縦横の連携が今一つできてい

ないと思われますので、同窓会の礎を更に強固
なものにしたいと考え、当支部の支部報の創刊
号を発行することに致しました。この支部報の創刊
号を介して、卒業年度会、クラブO.B.会等の絆を強
固なものにして頂ければ幸甚と存じます。

この創刊号が成るには、岩井吉人委員長を中心
に、高校十二回卒、十三回卒、六回回卒等の委
員の人達に大変な労苦をお掛けし、又創刊号発行
費の捻出のために多勢の会員から賛助広告の
ご協力を頂きました。甚深なる謝意を申し上げます。

序に会員の皆様様にお願いしたいのは、当支部
会計が危機状態にあることです。本部会計は
入会金(在学生の父兄負担)で賄われ、当支部
会計は本部からの十数万円の補助金収入です。
約一万五千名の卒業生が、入会金名目で、数
百名の在学生の父兄に経済的負担をかけ続けて
いることは、誰の目にもよくない筈です。母校
の発展に寄与できてこそ同窓会です。当支部に
年会費制を導入し、抜本的改革を行いたいとは
思っておりますが、差当つては、臨時会費的
に、当支部会計に、然るべき額の寄進をお願い
致しますので、重ねてお願い申し上げます。

更に同窓会の活性化には、何よりも会員が集
うことです。来る九月八日の総会には、万障お
繰り合せ、お誘い合せのうえ、是非ご出席下さ
いますよう、ご案内申し上げます。

津名高等学校同窓会総会のご案内

日時 平成8年9月8日(日) 午前11時～

& 本部総会・支部総会

場所等 神戸商工会議所内神商ホール

懇親会(恩師との歓談・フラメンコ舞踊等)

ホテルゴーフルリッツ

参加費 8,000円(但し 高44回卒生 4,000円)
以降は

出席希望者は同封の返信用葉書で御連絡下さい。

ご寄附のお願い

このたびの会報発行並びに今後も支部
報発行を継続的に行なう予定ですが源資
がなく不安を感じています。つきまして
は皆様方のご寄附をお願いいたしたく同
封の振込用紙により最寄りの郵便局から
お振込をお願い申し上げます。

一口 1,000円

追記：同窓会運営拡充のため総会に参加
されない方は、一口千円の運営費をぜひお
送り下さいますようお願い申し上げます。



電車でお越しになる場合
●三宮からポートライナーをご利用下さい。
●ホテルゴーフルリッツは「市民広場駅」下車
北へ徒歩3分、商工会議所とのサインビルです。
三宮駅から約10分です。

衛生害虫駆除業務

東京コンストロール・システム株式会社

代表取締役 宝谷能章

〒153 東京都目黒区五本木一五十一番十二号
電話 〇三三三九七二一
FAX 〇三三三九七二一

弁護士 本田卓禾

(高六回生)

事務所 神戸市中央区多聞通一丁目一番七号
FAX 〇六〇七七八一三三
電話 〇六〇七七八一三三〒658 神戸市東灘区岡本一丁目二番十五号
電話 〇七八八四五一九〇〇

株式会社 いわみ美容室

代表取締役 岩見 恵邦子

〒543 大阪府天王寺区石ヶ辻町六番六号
電話 〇六〇七七八一三三
FAX 〇六〇七七八一三三日本美容研究 本郷会会長
全日本美容研究 本郷会副会長
大阪府美容環境衛生同業組合理事

(高六回生)

「或る緊急避難」

津名高校同窓会
会長 三津 啓祐
(高三回生)

恥ずかしながらお話をいたします。

確か20才の頃だと記憶いたします。紀元前ギリシア法律の一つに「カルネアデスの船板」(カナのつづり)に誤りがありましたらお許しを。つまり緊急避難の法則でありましたがこの原理は現在も六法に脈々と活かされているとの話が、今もって強烈に脳裏に焼きついているのでございます。

勝手な解釈ですが、昨年の地震で私自身本能的にこの法則を適用し、あの難儀を通過したような気がいたします。

私共の会社は、淡路島は一宮町に工場がございます。昨年の地震では、北淡町と並んで最も島で災害の大きかった地域でございます。従って底分の被害を蒙りました。

物理的損害は別として、私共は機械の製作や精密部品下請メーカーでありまして、使用する精密工作機械が生命であります。その修復は大変な事でして、工作機メーカーから延べ120人の技術者に来て頂いたでございます。又従業員は子会社を含め220人中80人の家屋が全半壊い

母校愛に根差した

更なる発展を期して

相談役 筆谷 正

昭和四十七年七月二十三日大阪中之島の「新大阪ホテル」において支部の創立総会が開催されました。

出席者の皆さんが母校を思い、久し振りの校友との再会を喜びあつて、しばし興奮の渦につつまれたことを思い出します。

当時組織の充実、強化が三津会長の大きな課題であつたので、阪神間に居住していた私が同期としてその一翼を担いました。

勿論母校の先生方、本部役員の皆さん、推せんされた各期同窓の世話人のご協力により、盛大なスタートを迎えることができたわけで、あらためてこの誌上をかりて感謝申し上げる次第であります。

支部結成以来、四半世紀が過ぎようとしておりますが、後任の役員の皆様のご努力により、あらたな飛躍がみられ、誠によろこばしい限りであります。

支部創立後、地域の会員間の親睦の輪がひろがり、母校に対する関心が一層深まってきたことは、大きな成果であつたと思ひます。

たしております。これで大体の状況は察して頂けるものと思ひます。

最も大きな痛手は、最大の御得意先であります会社が神戸の東灘にありまして、この会社が全壊された事にございまして。

悪い事は重なるもので、災害さめやあぬ2月に入りまして、戦前からのお付き合いのあつたかつての専門企業が倒産されまして、少なからずの損害を受けました。

トリプルプレーの受難でございます。

当時、淡路島でも26社が雇用保険の適用を受けられ、一時帰休制度がとられておりまして、当然「当社も縮小するもの」と、役職者ももとより従業員は予測していたハズでございます。

私もあの2月前後、実態が明るみになるにつれて、毅然とした態度はしていたものの、立っているのが精一杯でございました。

田舎の会社はどうしても地域密着型の図式になつております。会社の行く末もさることながら、平均年齢30才そこそこの従業員ですので、家は壊滅、会社には行けずとなりますと、「今彼等になにをしろやれるのか」と思ひ悩むと頭が狂いそうになりました。体重も4kg減りふらふらになりながら、全員を集めて進軍ラッパを吹きました。

パートの方を含め全員一人たりともやこしいことはしない。会社はこのまゝやれるとこま

ただ問題点は、対象地域の広さと、著しく異動する会員の把握であります。

隔年一回定時に開催する総会のみでは、解決は容易ではありません。最近顕著にみられる、クラス会をベース、世話人の皆さんの草の根、活動も大切であります。

今回の支部報の創刊はこのような意味でも正に時宜にかなつた事業といえましよう。

今や、母校も進歩に、スポーツに大きく躍進して参りました。同窓会としても物心両面に亘り一層目をむけなければなりません。

阪神支部は地域組織のリーダーシップをとって戴かねばならず、役員の皆さんの連携ある運営を期待して止みません。

支部会員の皆さんのご理解とご協力を切に念じ、ご挨拶と致します。

支部誕生から二四年

前支部長 立花 和也
(高校五回)

同窓会活動に係わつて飽きずに二四年間、還暦を迎えた今も何故か縁が切れません。

支部報創刊にあたり阪神支部の歩みを回顧してみました。皆様も一緒に、その時々の記憶

でやる。今後に備へこの際、最新鋭の工作機械を導入する」と方針を示した。

女子は時期でもありまして芝生の施肥、ダンブカー2台分の芝生の目土入れ、ガレキの後片付け、男子は工場の修復、一部子会社へ出向、これから設備する工作機械のレイアウトとそれに伴う治具の製作。

多少の希望の観測もないではなかったのですが、人は減らない、おまけに設備の増強等、殆ど具体的な目安もなく、急場しのぎ、時間つぶしの為行なつた。

実は平成4年に18億かけて新工場を増設しておりまして、財務的にもゆとりのあるハズでございます。新たに導入しました最新鋭の工作機械が数台ワナリ声を上げていました。それに

つられ、既設の工作機械も今までに増して動きだしました。不思議なことに私の体調も、その響きとともに急速に回復し、従業員も目の色も変わつて参りました。

おかしな事に、数年は復興に費やすと思つていた東灘の取引先から「強力な応援を頼む」と震災前に増して多量の注文が舞い込み、訳がわからなくなりました。

しかし経営者としてリストラの逆行ををし、愚かな策だと思はれるでしょうが、私の能力、気力からすれば、あの時の手立てしかなかったのでございまして。

をたどつてみてくだい。

〔総会開催日〕
昭和四十七年七月三日 新大阪ホテル
支部結成大会

四九年 松楓閣
五一年 太閤園
五三年八月 舞子ビラ
五五年九月三日 生田神社
五七年八月二日 大阪府立労働センター
支部結成一〇周年記念大会

五九年一月三日 神戸貿易センタービル
六一年八月二日 宝塚ホテル
六三年九月二日 六甲荘
平成二年九月二日 津名高校
支部創立七〇周年記念大会

四年九月二日 オリエンタルホテル
六年九月二日 オリエンタルホテル
六年九月二日 ホテルシエレナ

昨年の阪神淡路大震災で思いでの会場も大きな被害をうけました。生田神社本殿が全壊し再建、歴史あるオリエンタルホテルは全壊し消滅、ホテルシエレナは未だ休業中です。

無情にも激震地区には同窓生が一度多く居住しており、その被害は筆紙に尽くし難い程に甚大でありました。皆様の一日も早い再建とご健康を祈願するとともに、不運にも犠牲になられた同窓のご冥福をお祈りします。

合掌

「カルネアデスの船板」緊急避難を本能的にいたしました。

1年半が過ぎ振り返つてみますに、中小企業だから罷り通つたものと思ひますが、感無量でございます。

「幸せと不幸せはいつも同居している」「幸せと不幸せは二人連れでやってくる」と聞いておりますが実感いたしました。

人間ええ加減なもので、労使とも又ウブウ不不満を言いながら、何事もなかったかの如く仕事しているのがまことに不思議なことでございます。

大阪魚市場株式会社

常務取締役 明 角 清重
(高七回生)

〒553 大阪市福島区野田一丁目一番八六号
電話 〇六二四六九二一〇六番
FAX 〇六二四六九二二六五番

神港魚類株式会社

明石支店長 取締役 松下 勝
(高六回生)

〒673 明石市藤江二〇二九番地の一
電話 〇七八二二二一三〇七代表

薄木法律事務所

弁護士 薄木 昌信
(高七回生)

事務所 大阪市北区西天満四丁目七番七号
〒530 大阪市北区西天満三丁目三番七号
電話 大阪 〇六三六五 五五二二番
FAX 大阪 〇六三六五 八五一二番
自宅 吹田市千里山田一丁目三番九七〇三番
〒565 吹田市千里山田一丁目三番九七〇三番

成栄運輸株式会社

代表取締役 志智 正光
(高六回生)

大阪市淀川区加島三丁目三番八号
〒542 大阪市淀川区加島三丁目三番八号
電話 〇六三三九 〇七三三番

着物・ジュエリーの店

おおつえ

都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八
都志店 FAX 〇七九 〇八五 〇二八

筆谷 正
(高三回生)〒663 西宮市甲子園口北町三二一
電話 〇七九八三 〇三三八〇

淡路フエリー

平松 忠
(高八回生)

〒655 神戸市垂水区福田三三二一五
電話 〇七八七 〇九一八二七

岩井 吉人
(高十二回生)

〒655 神戸市垂水区仲田一三三三
電話 〇七八七 〇八一六六

寺崎 弘子
(高女十一回生)

〒652 神戸市兵庫区大開通七二一十一
電話 〇七八七 〇六一五三四〇

石原 富子
(高六回生)

〒650 神戸市中央区元町通一三三
電話 〇七八三 〇一四七四

保宗 幸夫
(高六回生)

〒653 神戸市垂水区城島山一五
電話 〇七八三 〇一四七四

中山 明
(高六回生)

〒656 津名郡津名町志筑南三三〇八
電話 〇七八三 〇一四七四

小久保 澄夫
(高十三回生)

〒657 神戸市灘区鶴甲一四一
電話 〇七八三 〇一四七四

立花 和也
(高五回生)

〒654 神戸市須磨区須磨寺町三六二二
電話 〇七八七 〇一三二四

藤田 典子
(高六回生)

〒653 神戸市長田区高取山町九
電話 〇七八六 〇一五五八三

「雑感」

兵庫県北淡町長 小久保 正雄
(高四回生)

震源地の町長となつて一年半、あの地獄の底を見るような日々を、病氣にもならずよくやつて来たものだなあ、え、ニュースはひとつもなかったなあ、という思いで毎日(過)して来たところへ、津名高の校長さんから「野球部が県優勝しました。!!」という電話をもらった時のうれしさ!!

「阪神支部報に寄せて」

川西市長 柴 生 進
(高十回生)

あの思まわしい大震災から早いもので一年半が経ちました。同窓の皆さんはいかがでしようか。私も自分の家は一部損壊で済んだのですが、修理はまだまだ出来ず破れたふすまや障子はそのままの状態です。川西市は比較的被害が他市に比べて少なかったこともあり、仮設住宅に住んでいる約四割の方が元の生活に戻れたのですが、これが大変です。いつも被災市町の市町長の会合で淡路島の市町長さんとか会うのですが、復旧・復興に本当に心を痛めておられ、特に小久保先輩のご苦労に頭が下がります。まさか、私と同じ県会から首長という運命になるとは。しかも、私のいとこと小久保先輩のいとこが夫婦です。これも奇遇であり、ともに頑張りたいと思っています。

この間、県庁淡路会があり出席してきました。これは淡路出身の県庁職員と県会議員で作っている会で私もOBとしていつも欠かさず出席しています。津名高からは残念ながら県議員はなくなりまし。しかしながら、職員の方からはさぞぐ有力な幹部が出来つつあり、本当に頼もしく楽しみです。いずれ、兵庫県をしっかりとつとめたいと大きな期待をもっています。私は市民の皆さんと話をしたときに、「私の友人の淡路の人から柴生さん(たのまれ)」とよく聞きます。いつもその時思うことは、私の分からないところで同窓の皆さんが私の事を心配してくれているんだ。その方々を絶対に裏切つてはならない。そして、一生懸命初心を忘れず頑張ることと自分に言い聞かせています。ふるさとが同じということはすべてを超越して心が許せるものです。津名高阪神支部が本田先生を中心にさらに団結して発展することを心から願つてやみません。

果たせなかった永年の夢がやつとかなえられたかと思うと、思わず目頭が熱くなるのを禁じ得なかった。部員たちはちろんのこと、各時代の部長や監督の心中を察すると、それだけで胸が一杯になった。

どうも地震からこちらへ涙もろくなつてしまったよう。『ふるさととは遠きにありて思うもの……』というが、同窓会活動も地元淡路がうまく行かない。ふるさとも、母校も日常生活の中にあるから格別の感激が湧かないのだろう。総会の集りなども地元でやるのサッパリだ。

喜びと感謝

校長 岡 勢都夫

ことしの本校同窓会阪神支部総会が本田会長さんのご尽力を得てポートアイランドの神戸商工ホテルで盛大に開かれますことを誠に光榮とするところであります。ここに職員、生徒を代表して阪神支部の皆様へ厚く御礼を申し上げます。既にご承知と思いますが、本校の歴史は古く、開校以来今日まで七十六年という長い歴史をもっています。

これまで順調に発展してきました。その間に本校卒業生の数も一四九三一人をかぞえまして、なかには法曹界に、実業界に教育畑或いは文化人、または医者、科学者として、いろいろな分野に活躍されている方も少なくありません。こうして、本校は県内でも有数の文武両道を両立させている学校として高い評価を得ています。淡路高校総体で十二年ぶりに男子が総合優勝、県大会ではソフトテニス(個人)が優勝、そして、野球部が本校創立以来初めての優勝を飾つてくれました。

中味のほうも理数コースや普通科への安定した志望率、高い大学への進学率を見てその発展ぶりが分ると思います。本校のこの発展は職員と生徒の教育への情熱に加えて、同窓会員の皆様、地域の皆様の愛校精神と絶大なご支援のたまものであると、限りない喜びを感じております。そして、阪神淡路大震災により校舎移転問題も立ち消えとなつていく状況で大変不自由をしています。生徒たちのために「一日も早い移転、改築を願つています。生涯を通じて自ら学ぶ意欲を持ち、個性豊かに独創性や思いやりの心をもつた心身ともにたくましく生きる生徒であります。」「三つ子の魂百まで、雀百まで踊りを忘れず」と言われるように、三年間の本校生活の中で

だから阪神支部の皆さんに頼らざるを得ない。阪神支部の、皆さんよろしくお願いいたします。野球も、夏秋の大会で優勝してもらつてぜひ私の生きている中に甲子園へ出てもらいたいと念願しています。

そのことを楽しみに皆さん、しっかりと応援しなさい。お力も出してあげて下さい。大震災のせいで津名高の校舎の新築移転も棚上げ状態になっていますが、できればこ、一、二年のうちに方向を、見出したいと思っています。それでは阪神支部の皆さん、大地震にめげず、元気に活躍下さい。

同級生による旅の思い出

坂 東 洋 治
(高六回生)

昨年十一月、六回生有志の一泊旅行に、参加の機会を得ました。赤穂御崎泊で、現地集合。翌日は、奇麗な海岸に在り、窓からは、播磨灘が一望出来る静かなところ。風呂に入り、旅の疲れをいやした後の夕食。日頃、有り付けぬ沢山ののご馳走に、順次、箸をつけ、夕食を堪能する。食後は、全員一同に会し、食卓を囲んでの懇親会。誰かが言うところ、料理の話から始まり、世間の噂話、家族家庭その他話話事話事。酔いの助けもあり、功言令色は感じられない。本心本音の言葉が飛び交う。思わず、抱腹絶倒すること再々。初めて、体験する同級生の団契は、盛り上り、和気藹々の内に、深夜に至る迄、親交を温める。

翌日、JR赤穂・岡山(兼乗)一最奇の駅まで、のんびりと各駅停車の旅。播州、吉備の平野は、稲穂が深く垂れ、黄金に輝く、まばゆい稲田が広がっている。河川の堤は、枯草色が細長く続く。山麓から山間にかけて、色とりどりのあざやかな色合の美しさ、渓谷では、紅葉が一きわ映えている。変り行く景色に、目を注ぎながら、世相の話を花を咲かせる。一行下車。幾山を越え、山奥の中腹辺の駅で、一行下車。山深い処のようだ。これよりパスの便。パスは、五分位で、登りに差掛る。舗装道路だが、九十九回の急カーブ、左右に絶間のない大きな揺れ、外角カーブでは、恐怖心さえ感じられる。変化とスリルに溢れた乗心地。頂上付近からの下界の眺望は、晩秋の山間農村の箱庭のよう人間味豊かな人となる礎を身につけさせ、校庭いっばいに若さや情熱をみなぎらせてほしいと願っております。創立八十周年を迎える四年後はすでに明石海峡大橋が開通しており、記念式典や記念誌の発行等が予定されています。今後共同同窓会員の皆様のご支援を心からお願いする次第であります。

うな美しい風景、絶景の一言。頂上からの下りは、山をぐるぐる回り下つていく。村裏の学校の近くでは、農機具、日用品、食品が並べられ、屋台の店も出て、村人で賑わっている。その中を通り抜け、刈取り後の田園風景を眺めながら、一路目的地へと向う。

奇麗な洞は、思った程大きくはないが、乳石柱は、その奇形と乳白色の調和がいい。薄明の電灯で照らされて、幻想的に映り、生き物のようだ。数え切れない年月を経て出来た自然の美術品、自然の創作力と忍耐力の力強さに、驚くだけである。忙しい人間社会は、嘘のよう。妖怪が待っている。今にも、現われそう。神秘さと、奇怪で不思議さを感じながら、うつと見とれる場面にも出合い、自然の美しさ、偉大さに感嘆する。

バス停留所から、奇麗な洞へと歩いていく。その間に、男性と肩を並べていた。その人が、私に話かけ、次のような会話になる。A「あなた方は、どんな関係の人達ですか」

B「淡路島の兵庫県立津名高校を、昭和三十年に卒業した同級生の一団です。私は、八月に定年退職し、この機会を得て、初めて参加したのです」A「えっ!」この時、二人は、思わず、顔を見合せ、四、五秒程無言状態(Aの顔は驚きと真剣な目ざであった)それからゆつとりと、A「四十年前も前の。いいですね!」羨しい限りです」B「この年頃になれば、あなたの郷里でも、私共と同じような事を思っている方がきつといるでしょう」B「そうですね」二人は肩を並べて歩き始める。B「単身赴任で、明石市に住んでおり、五十四才で、佐賀県の高校を卒業したのです。休日は、いつも一人、カメラを下げて、名勝を見学して歩いております」このような会話が進行したところで、洞の入口に着き、私は一行と合流するために別れました。

二人が顔を会合した時、お互いに何かに通じ合うものを感じた。それは、二人の人生で互いに合意共通するものがあつたのではない。一体何なのか。学業を終え、社会に出て会社に入り、会社人間として、仕事々々で、仕事を人生として生きて来た。永い年月仕事以外の人生を考へもしなかった。学校を出て別れた友は、別世界の人になつたと思ひ込んでしまつたのか?諦めたのか?その彼が、定年を、意識する年に偶然にも、仕事以外に関わる人生を耳で聞き又、現実、目前で、楽しい人生を送っている一行に出合い、今の自分の姿を見直す機会を得て、昔日の懐かし、今度の学校生活、共に過ごした友達の顔を思い出し、望郷の念にかえられたのではない。同級生との絆は、切れるものではない。同級生とのよき絆を結び、定年後のよき友を持たれることを祈つております。見知らぬ土地で、見知らぬ人との出合、心のふれ合い。忘れられない貴重な体験、又の旅情をそそるいい旅ができ、厚く感謝致します。楽しい、素晴らしい同級生、仲間!次回もよろしく、ご同行の皆様は厚く御礼申し上げます。

高田 一弘
(高六回生)
〒651-11 神戸市北区ひより台
〇七八七三三七三〇四
〇七八七三三七三〇四

ヤノ運動用品株式会社
副社長 並彦
(高六回生)
神戸三宮センター街

谷口 勉
(高十二回生)
〒555 大阪市西淀川区姫島六十四十六
〇六〇六二七二〇六七

鎮 静 晃 子
(高六回生)
〒651-22 神戸市西区井吹台東町
〇二一〇一三二二六
〇七八七九七〇四五六

高校十三回生
サッカー部OB有志一同

中山 益 伸
(高十三回生)
〒654-01 神戸市須磨区南落合一四一六
〇七八七九七五八三三八

古土井 和佳子
(高六回生)
〒652 神戸市兵庫区楠谷町三〇一五
〇七八七三三四一三〇八

支部報発刊
祝 津名高等学校
高六回卒業生一同

宮崎 英 子
(高六回生)
〒673-05 三田市志染町広野三二二八九
〇七四一八五五八八〇

吉野吟行

森多 貴美子
(高六回生)

還暦を機に俳句の会「河」に入会いたしました。風薫る五月、初めて吉野一泊の吟行に参加し、大変勉強してまいりました。旅にはよく出かけても、何気なく素通りして、いかにほんやり見過ごしていたかを痛感いたしました。

まず、伝統を誇る和紙の里の紙漉き場と、著工房、木地師の作業所等の見学でしたが、先生が絶えず話しかけてくださいます。

「今日はこの村の溝澄えですね。あ、おじさんが庭木の手入れをしていますよ。枝払いとも言ってどちらも季語です」。

宝塚歌劇への誘い

本田 卓禾
(高六回生)

今春には赤いモダンな屋根の宝塚大劇場で、雪組の若きトップスター一路真輝の退団公演を兼ねた歌劇「エリザベート」を観劇した。

宝塚歌劇団に叔父が音楽家として勤務していた関係で、少年時代から宝塚劇場へ足を運んでいた。宝塚歌劇には、老若男女を魅了する美しさがあり、若き躍動感がある。

さて、一路真輝主演の「エリザベート」について少々紹介しよう。歌劇「エリザベート」は、神聖ローマ帝国、ハプスブルグ帝国として、約七百年間、ウィーンを本拠に、ヨーロッパに君臨し続けたハプスブルグ家末期の皇帝フランツ・ヨーゼフの妃エリザベートの生涯(一九世紀後半)に裏面から脚色したものであった。

ハプスブルグ家というのは、誰もが知っているフランス革命時に、パリのコンコルド広場で、ギロチンの露と消えたルイ一六世紀マリー・アントワネットの生家のことである。

絶世の美女であったエリザベートが、同女の姉と既に皇帝になっていた若きフランツ・ヨーゼフとの見合いに同席したところ、わずか一六歳のエリザベートが若き皇帝に一目惚れされた。エリザベートは、結婚はしたものの、洋の東西古今を問わず嫁、姑の確執があるうえに、格式高いハプスブルグ家の姑の気に入らず、又フランス革命の如き革命がオーストリアで起らないように、愛娘を失った女帝マリア・テレジア時代から革命予防の官僚制を徹底していた。

「忍坊主です。あ、有線放送が始まりました。懐かしいです」。

「この辺りは、田舎ですから、よろずやがありません。葉や、花種、卵も売っていますよ」。

「この和紙は涼しげですね。藻を漉きこんであふんですよ。これは漉き舟といひます。あれは櫓を漉き舟です」。

新米の私の為に先生の説明が続きます。

○よろずやに売る花種と陀羅尼助

○木の香を吹いて童女の心につけり

その後、吉野川のほとりの国栖の里、清見原神社へ。ここでは、国栖泰と呼ばれる古い時代の山里の歌舞が受け継がれていて、古式豊かな芸能の面影を偲ぶことができます。

○新緑の吉野路どこもみずみずと

○風薫る杉の丸太の橋渡る

次は、世尊寺です。ここには大山蓮華の大本があり楽しみにしていましたが、まだ、ほとんど

のためにエリザベートが生んだ子は、姑に取上げられて姑の手で養育されることになり、宮廷では儀式や礼儀作法でがんじがらめにされていた。最も頼りにしていた夫である皇帝は、革命を求める市民の蜂起の弾圧のために奔走して、エリザベートを騙る暇もなかった。四面楚歌に陥ったエリザベートは、療養と称して、旅また旅の生活をして、宮廷から逃避するようになっていった。また時には、ハプスブルグ帝国に反抗して、ハンガリーの独立、ハンガリー二重帝国の成立に手を貸したと、後世においても市民から批判されている。更に不幸なことに、エリザベートの生んだ王子が母親の愛を知らずに育ったことが災いしたのか、謎の自殺を遂げた。汚染の涙を流し、途方にくれた旅また旅のエリザベートであったが、ジュネーブのレマン湖畔で、イタリアの無政府主義者に暗殺され、波乱万丈の生涯を閉じたのであった。

ちなみに、オペラ「エリザベート」は、ウィーンで数百年のロングラン公演が行なわれていると聞く。ヨーロッパ各地には素晴らしいオペラ座がある。二年程前、千年の都と言われるチエコのプラハの建物そのものが美術品のような国民劇場で、オペラを観劇したが、オペラには、パリのムランルー・ジュー、リド等でのシヨ

と異つて、高尚な趣があり、言葉が分らないとも感動的であった。

さて一路真輝が演じた「エリザベート」は、エリザベートのトート(死)として、セリフにない、エリザベートの裏面を披露するものであったが、トップスターの退団という重みも加わつて、素晴らしい感激があった。歌唱力もある一路真輝が、活動の舞台を変えて、われわれの前に現れる日を楽しみにしている。

同窓生の皆様も誘い合せて、時には心豊かに、宝塚歌劇の観劇をしましょう。

ど番ではのり白く開きかけの花が一つだけあり感動の一瞬をひねくれたものの句にならず、Sさんの「大山蓮華と見て一花」という句になるほどなるほどと拍手を送った次第です。葉枝の蔭に芭蕉の句碑があり境内はつつじが満開でした。

○葉枝の照りがきてゐる芭蕉句碑

○今年竹すつく立ちてとまどへり

下山温泉で宿泊。皆さんメモにらめつこしなからの奮闘で、ゆつくり湯に浸かる気分ではなかつたようです。私は俳句より温泉です。

○林の花思ひつきり湯につかりたる

○暮鳴いて星の増える山の宿

山の朝は、清々しく、空気がおいしく茶粥をおかわりしてしまいました。

○つつんと松の新芽の伸びきさふ

この日は、杉木立を抜けて黒滝村の赤岩溪谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素

谷を散策、そして最後が川上神社でした。簡素



つばやき



あとがき

今、ここに念願の同窓会支部報を発行することができました。皆様がこの会報を手

る時、学生時代の思い出がよみがえり、懐かしい気持ちにひたり、会員同志の絆を深める一助になることを期待いたします。これからも会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

最後になりましたが、支部報刊行にあたりまして、ご協力、ご協賛下さいました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

編集委員 岩井

編集委員 岩井

編集委員 岩井

編集委員 岩井

編集委員 岩井

な白木の社を楠木が覆っています。先生「これはしめと言つて「注連」と書きま

す。この縄で囲つてあるところは結果といひま

して俗人はここへは入れません」と言いなが

ら、ひよいと潜りすぐ戻つて大笑い。

○結果をくぐりて戻る黒揚羽

○緑蔭の賽銭箱の音響く

○吊橋を渡りきれずに夏帽子

吟行では、目にしたものは、すぐにメモし、句材にします。例えば、

○焼酎と実山椒の乗る大和ずし

○川上村の鮎解禁の掲示板

という具合です。

緊張と、ときめきの新入生気分の吉野吟行で

した。

八代学院

〒655 神戸市垂水区学が丘5-1-1
(本部・大学・高校)
本部 (078) 709-7151(代)

神戸国際大学

経済学部・経済学科(男・女)
都市文化経済学科(男・女)

神戸国際大学 附属高等学校
〔普通科〕・〔国際科〕(男子)

株式会社 田中不動産

代表取締役 田中 種義
(高十三回生)

〒569 高槻市宮野町十二番十六号
電話 〇七六二七五九三三三
FAX 〇七六二七五九三三三

菓子・珍珠卸

有限公司 きだ

喜田 美登里
(高十二回生)

〒651-22 神戸市西区戸谷町福谷八五
電話 〇七八(九九)七七七二
FAX 〇七八(九九)七七七二

三洋ライフエレクトロニクス株式会社

取締役社長 笹川 英明
(高第五回生)

大阪府守口市大日東町一番一
電話 〇六九〇二二二一(代)

坂東洋治 (高六回生)

市人勝 (高六回生)

脇野安繁 (高六回生)

坂東章好 (高六回生)

稲室義直 (高六回生)

平田一男 (高六回生)

森多貴美子 (高六回生)

先山慶子 (高六回生)

尾崎田鶴子 (高六回生)

国重税務会計事務所

旧姓梅木 香代子 (高七回生)

西辻元子 (高六回生)

常葉学園浜松大学

浜野圭市 (高六回生)

太田均 (高六回生)

〒569-11 大阪府高槻市赤大路町一千九百七
〇七二六九一五一一一五六

〒432 静岡県浜松市東区五十丸
〇五三三三九四四二一九七

〒562 大阪府箕面市松井一三三三
〇七二七三三三三三三三

〒543 大阪市天王寺区上本町七十一番五
〇六一七九一八二〇三

〒566 摂津市千里丘四十三番二七
〇六一三九一四〇七〇

〒655 神戸市垂水区万居殿一七七八
〇七八七五一一一〇〇〇

〒558 大阪府住吉区万代東一三二五
〇六一六九一〇〇〇三

〒569-11 大阪府高槻市赤大路町一千九百七
〇七二六九一五一一一五六